

## 第9回 八戸市生活支援体制整備推進協議会 会議録

日時 令和元年11月19日(火) 14時

場所 八戸市庁本館 3階 議会第二委員会室

### ○出席者(7名)

吉田委員、御厨委員、高渕委員、堀内委員、船橋委員、豊山委員、小柳委員

### ○欠席者(1名)

池田委員

### ○事務局

豊川福祉部長兼福祉事務所長、中里福祉部次長兼高齢福祉課長、中居地域包括支援センター所長、石木田主幹、山口主査兼社会福祉士、櫻庭技査、島田主査兼社会福祉士

### 開会

山口主査 : 本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。次第に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。資料は、次第と資料1から資料3までございます。足りない方はいらっしゃいませんか。

本日、出席の委員は7名となっておりますので、八戸市生活支援体制整備推進協議会規則第5条第2項により、協議会が成立しておりますことを御報告いたします。

それでは、定刻となりましたので、ただ今より、八戸市生活支援体制整備推進協議会を始めさせていただきます。私は、高齢福祉課の山口と申します。どうぞ、よろしくをお願いいたします。まず始めに、小柳会長より御挨拶をお願いいたします。

### 会長挨拶

小柳会長 : 本日はお忙しい中、お越しいただきましてありがとうございます。

さて、本日は生活支援体制整備事業の進捗状況の報告が中心となる予定ですが、お気づきの点につきましては、遠慮なく御発言くださるようお願いいたします。

山口主査 : 小柳会長、ありがとうございました。早速、議事に入らせていただきますので、小柳会長に進行をお願いいたします。

## 報告案件

小柳会長： それでは議事に入りたいと思います。

まず、報告案件1の「いきがい・助け合いサミット in 大阪参加報告について」、事務局からお願いします。

島田主査： 島田から報告させていただきます。資料1と別紙になっている写真を御覧ください。前回の協議会においてお伝えしておりましたが、八戸市の事例を発表するという目的も兼ねてサミットに参加してまいりました。申込みをしたあと分厚い資料が送られてきて、講師のプロフィール、分科会の内容、当日の案内、134の発表の内容が分かりました。テーマは共生社会をつくる地域包括ケアシステムとありまして、当協議会で議論してきた内容とも重なるものでございました。主催はさわやか福祉財団、日時は9月9日から翌10日までの2日間、会場は大阪府国際会議場、参加者は3,300名でした。主催者によりますと当初2,000名で計画していたところ想定以上の人数になったということで事務局も大変だったようです。実際、私が参加するまでに事務局と4～5回くらいやり取りがありまして、事務局が大忙しになっている雰囲気を感じておりました。なお、このサミットは今年が初めてということでございました。

サミットの状況なのですが、9月9日は13時からスタートで、オープニングアクトといった位置づけで催しがありました。アフリカの音楽と踊りを障がいがあるお子さんたちやそうでない方も混じって発表している団体があるのですが、その方が15分くらい演じてくださいました。動画がありますが、当会場に設備がございませんので、御覧になりたい方は私にお声掛けくださればと思います。そのあと全体シンポジウムになり、様々なお立場の方が地域包括ケアシステム、地域支援事業、地域共生社会についてお話くださいました。進行は堀田力さんです。そのあと、15時30分から分科会第1パネルがありまして、私は共生型常設型居場所をどのように広げるかというテーマの会場に参加しました。複数の活動が報告されておりまして大きく分けますと2つの潮流があると思われました。1つは居場所を開放して、来る人が好きに使うというスタイルのものです。住民が主になって運営し、そこで遊ぶとか、静かに時間を過ごすとか思い思いにやるというもの。そしてもう1つは自治体等が計画をしてサロン活動を発展させたようなスタイルで居場所を作っていくというものです。八戸市に当てはめて考えますと、社会福祉法人白銀会のそよ風は両者の間くらいということになると思われれます。最初の報告は町内の空き家を活用した例でして、家主の申し出を受けて近所の女性達が始めた活動です。ひとまず誰かが常駐して住民が自由に入ってこられるような場

にし、そこから徐々に活動が生まれていけばいいというところから発展しました。発表者は、人が集まってくれば自然と目的も活動も生まれてくるといった趣旨の発言をしておりました。もう一方の公が強く介入しているところでは廃校を活用して、サロンやカルチャースクールのような取組をする団体を募集し、現在は NPO が活動を担っているという事例がありました。料理教室をやったり、運動があったり、多世代交流の場が設けられたりしていました。

2 日目は分科会第 2 パネルで、私は認定介護福祉士が地域包括ケアシステムを推進するために果たす役割をテーマにしている会場に参加しました。参加した理由は、当市におきましても担い手の確保が課題になっておりますので、何かヒントになることがあればと思ったからです。実際に職場を持ちながら地域に出向いてサロン活動を盛り上げたりしているという実践発表がございました。発表者がおっしゃっていましたが、地域に出向いて活動することを介護福祉士の養成過程で十分に学んでいるわけではないので探り探りに対応してきたとのことで、飛び込んでみると地域の人から思いのほか喜ばれるということが分かったという話でございました。そのあと 13 時 30 分からポスターセッションがあり、私は発表内容が掲載されたポスターの脇に立って来場者に説明してまいりました。実際に始まると三島祭りくらいの人口密度になりまして、その中で説明することになりました。発表したポスターの下にはシールを貼る用紙がありまして、来場者が良いと思ったものに票を投じることになっておりました。八戸市のところは 2 枚目の用紙までいっており、発表全体の半数以上は 2 枚目に届いていませんでしたので、それなりの発表をできたのではないかと考えておりますが、正確な順位は不明でございます。会場でお声掛けいただいたのは、滋賀、愛知、岩手、青森等の多様な地域からの参加者でございまして、多かった質問は「大学の協力をどうやって得たのか」「社会福祉法人の協力をどうやって得たのか」の 2 点でした。いずれにつきましても、これまでの市の取組をお伝えしてきたところでございます。第 3 パネルでは在宅における介護人材の確保というテーマの会場に参加しました。もっと介護職が自信を持って他職種、他機関、地域と向き合ってもいいのではないかという話がございました。端的にいますと、遠慮しすぎている、専門職としてのプライドを持ってほしいという話だったと思われまます。そして最後に全体発表会がございまして、各分科会の内容と提言事項を共有しました。

今回、発表するということで主催者から交通費等の手当てがあり参加することができました。八戸市の実践状況についても会場でお声掛けいただいた限りでは良い評価であったと受け止めております。主催者から提言事項等を

まとめた報告書が送られてくることになっておりますが、まだ届いておりませんので、後日その内容も皆様に共有させていただければと思っております。以上でございます。

小柳会長 : ありがとうございます。ただ今の説明に対しまして、御意見、御質問等があればお願いします

高瀬委員 : 先ほど主催者からの報告書がまだ届いていないという話でしたが、我々も参考になるところがあるかもしれないので、関係があるところだけでもコピー等をしてもらえればと思います。

島田主査 : そのようにさせていただきます。

小柳会長 : その他に、特に御意見等がなければ、次に進めさせていただきます。

次は、報告案件2の「八戸市日常生活支援事業（訪問型サービスA）の実施状況について」、事務局からお願いします。

島田主査 : 資料2を御覧ください。以前お知らせしておりますが、八戸市シルバー人材センターの協力を得て実施しているものです。事業は8月1日から開始しております。今のところ1件の利用でございますが、70歳代の男性です。今年の春頃まで御夫婦でお住まいでしたが、急に奥さんを亡くされて、ひとり暮らしになった方でございます。高齢者支援センター福寿草が関わりをもっており、この男性の自宅から近いところに町内会が設置している集会所がありサロン活動等をしているのでお誘いしたのですが、参加する意向はないとのことでした。御自宅の中のことは自力である程度できているのですが、手が行き届かないところもありますので、「訪問型サービスAを利用してみてはどうか、家の掃除等も手伝ってもらえけれども、いい話し相手にもなるのではないですか」と提案したら受け入れたという経緯があります。支援は1回45分で週2回対応。支援内容は家事援助が中心となっておりますが、コミュニケーションに割く時間が多いとの報告を受けております。支援開始は10月初旬で、相談経路は高齢者支援センター福寿草でございます。今のところ訪問支援員が2名体制で対応しておりまして、トラブルは発生しておりません。支援実施に向けた対応の流れについてですが、事業が軌道に乗るまでは市が仲立ちをすることにしておりましたので、高齢者支援センターと八戸市シルバー人材センターの間で連絡調整をしました。実際の動きは資料に記載のとおりでございます。最終的には高齢者支援センター、八戸市シルバー人材センター、私で高齢者宅を訪問して意思確認をしたうえで対応を進めております。今後についてですが、事業が軌道に乗るまでは市が仲立ちをしながら対応を進めていきたいと考えております。ただ、よりスピーディな対応を求める利用者もおられると思いますので、慣れてきたら市の関与の程度を弱めていくこととしております。なお、市が今年度養成した訪問支援員が15名

おり、そのうち2名が支援に従事しておられます。人数に若干の余裕はございますが、訪問支援員の不足感が出てきたら再度養成研修を行うことも考えたいと思っております。

小柳会長 : ただ今の説明に対しまして、御意見、御質問等があればお願いします。

高瀬委員 : 利用者の負担額はいかほどですか。

島田主査 : 御本人の負担が1回180円でございます。通常の訪問介護より数十円安いイメージになります。30分の支援ですと20円ほど安くなります。

小柳会長 : 堀内委員から実施状況や現状の受け止めについてお話いただいてもよいでしょうか。

堀内委員 : 10月は8回御利用いただきました。訪問支援員が2人、火曜日の担当と金曜日の担当に分け、各4回支援しております。現時点でトラブルの報告はいただいておりません。利用者の方は基本的に外に出るのを好まないところがありますが、話をするのはとても好きなようで家事援助よりも会話に時間を割いている状況ではあります。だんだんに「外に出てみようかな」という意欲が出てきているようです。

小柳会長 : 実は私も訪問支援員養成研修の講師として従事しましたが、受講者の皆さんとても熱意があると感じておりました。現在2名の方が支援に従事されているということですが、今後広まっていきそうな雰囲気はありますか。

堀内委員 : 高齢福祉課からの問合せや、八戸市シルバー人材センターに直接の問合せも数件きておりますが、今のところ実際に支援できているのは1件ということになります。

高瀬委員 : 堀内委員にお聞きしたいのですが、訪問支援員は八戸市シルバー人材センターの会員ということになりますか。

堀内委員 : そうです。会員の方が支援員になっております。

小柳会長 : その他に、特に御意見等がなければ、次に進めさせていただきます。

次は、報告案件3の「地区ワークショップ及び地域密着ワークショップの実施状況について」、事務局からお願いします。

石木田主幹 : それでは報告案件3の地区ワークショップ及び地域密着ワークショップの実施状況についてですが、資料3を御覧いただきたいと思います。私からは地区ワークショップについて御説明いたします。地区ワークショップは今年度3回の開催を考えておりました。第1回を11月17日に市庁別館2階会議室において実施しました。当日の参加者は住民が30名、学生17名、合計47名となっております。当日は、当課の島田が八戸市の将来予測ということで、今後の人口の動きとその影響等を御説明し、加えてこれまで実施したワークショップの状況と成果を伝えております。そのあと、地域包括ケアシステムについて小柳会長から説明していただいてから、ワークショップを行います。

た。ファシリテーターを八戸学院大学短期大学部の三岳貴彦先生にお願いし、年齢を重ねても地域で暮らし続ける方法について話をしました。各テーブル住民と学生を合わせて8名ぐらいで意見を交わしていただきました。当日の意見やアンケート結果については集計中でございましたので、次回協議会でお示しできればと考えております。地区ワークショップについては以上でございます。

島田主査 : 引き続き地域密着ワークショップについて御説明いたします。今年度初めて試行的に取り組むものでございます。目指すのは、より地域を限定して議論することで具体的な話題に踏み込むということです。2回を1セットと考えておりますが、1回目は昨日11月18日に内舟渡町内集会所をお借りして実施いたしました。当日は住民5名、予定では10名でしたが天候が悪くキャンセルが相次ぎました。学生は4年生5名、3年生1名の計6名でございます。最初は4年生だけで実施しようと考えていたのですが、3年生の1人が熱心に参加を希望したので加わってもらいました。第1回目は地域について理解を深めることに重点をおきました。当日、資料を用意して住民から過去の話聞いていきました。これまでのワークショップは1日で全て終わらせるスタイルでしたが、これだと学生が地域のことを知らないまま議論することもありました。地域密着ワークショップでは1960年代、1970年代というように区切って、当時の暮らしや地域の様子について話し合っていました。このときの話で主だったところを申しますと、災害の話題では「当時は今のように避難勧告といった仕組みはなかったと思う」という話がありました。小さい子どもがいれば母親が独力でどうにかするしかない、避難先もハッキリしていないという状況があり、中には自宅で祈るしかなかったという話がありました。あと地域のつながりについての話題では、内舟渡では田んぼの管理運営について周囲が協力する体制があった。しかも特に誰かが音頭を取るでもなく自然となされていたという話でございました。さらに1970年代以降のところでは医療や福祉が話題になりまして、病院が近くにないからそもそも行く機会が少なかったが、当時の市民病院に連絡すると医師や看護師が往診してくれていたという証言もありまして、現代とは随分違った様子もうかがえました。介護が必要な方には大抵その家のお嫁さんが対応していたという話でございました。また人のつながりについての話ということになると思いますが、職場の旅行に家族ぐるみで参加できるとか、田んぼが終わったあとに地域の人と一緒に旅行に行くといったことがあったとのことでした。このようにお話を聞いてみますと、かつては不便だったから人がつながっていたという側面があるのではないかと感じたところでございます。また、現在はアウトリーチという言葉が使われ、医療や福祉の専門職員等が対

象者のところを訪問して支援することが求められておりますが、かつては普通に行われていたというのはなかなか示唆に富む話ではないかと思いました。第2回目は12月16日を予定しておりまして、地域や住民のストーリーを理解したうえで、地域で生活をするための方策を考えることとしております。この様子につきましては後日皆様に報告し、検証をお願いする予定です。

高瀬委員：11月17日にワークショップに参加してきましたのですが、学生さんたちは地元の方もいますがそうでない方もいる。自分と同じグループには九州の福岡からお越しになった方がいました。そうした方々に現状だけ話しても難しいところもあるのかなと思っていたので、地区の過去について話をしてみました。すると過去を踏まえた意見が学生達からどんどん出てくるようになりました。内舟渡町内ワークショップでの資料を見て良い取組だと思います。

小柳会長：私も11月17日、18日のいずれにも参加させていただきました。終了後に学生からも話を聞いておりますが、相変わらず満足度は高いようです。初の取組となる地域密着ワークショップについても、学生から参加しやすいという話も聞いております。これまで地区ワークショップのファシリテーターを務めてきた三岳先生にもお声掛けし、地域密着ワークショップの会場にお越しいただいたのですが、これはよい仕組みではないかという話になりました。これまでの地区ワークショップを2部に分け、例えば午前は地域を知ること、午後には地域で暮らし続ける方策を話し合うということも考えられるかもしれないといった感想もおっしゃっていました。

その他に、特にご意見等がなければ、次に進めさせていただきます。

次は、報告案件4の「ごみ捨て支援について」、事務局からお願いします。

島田主査：こちらにつきましては準備中の事柄でございますので口頭での御報告となります。是川の八重坂町内のことでございます。是川縄文館から吹上に抜ける道路の途中にございますが、今年の夏に当課でシニアカフェの説明会を開催した折、八重坂町内の関係者からごみ捨て支援を要する高齢者の情報提供がありました。町内の奥のほうは道路が狭いうえ、坂道も多く、積雪があると収集車が入れない。そうなるとごみ出しが大変で、今は近所の人が手伝ってはいるが、大変になってきているとのことでございました。これまで収集車のことで市の担当課と何度も話はしているようなのですが、容易ではない状況とのことです。実際に私も現地を見てまいりましたが、確かに積雪があると収集車が入れないのは無理もないだろうなという印象を受けました。しかもごみの収集所が小分けにたくさんあるので、悪路のなか対応するのは厳しいだろうとも思いました。そこで、社会福祉法人ぶさん会や社会福祉法人東幸会のような取組ができないかと考え、いくつか社会福祉法人等をあたっております。今のところ白山台で事業を展開している社会福祉法人が協力を

申し出てくださっております。施設の利用者を送迎する車が八重坂町内の前の道を通るとのことで、そのついでに支援できるだろうとの話でございます。このことを私から町内の関係者にお伝えしたところ、先方から「敬老会が終わるまでは忙しいので、正式な返事はそのあとになる」との応答でございました。もし町内で支援の希望があるようでしたら実施に向けて準備を進めたいと考えております。もし実施することになれば数件まとめてということになるのではないかと思います。

小柳会長 : ただ今の説明に対しまして、御意見、御質問等があればお願いします。  
本日の案件は以上でございますが、他に御発言はございませんでしょうか。  
皆様、御協力ありがとうございました。司会を事務局に戻します。

#### その他

- ※ シニアカフェの実施について説明
- ※ 次回の協議会開催日について案内

#### 閉会

山口主査 : 本日も御審議いただきまして、ありがとうございました。  
それでは、以上をもちまして、第9回八戸市生活支援体制整備推進協議会を終了いたします。お疲れさまでございました。